

隨泉寺寺報

平成27年（2015年） 12月号 第544号

TEL.082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

報恩講法要

講師 妙国寺住職 斯波徹真師

講題 『浄土真宗の教え』

■ 報恩講とは

報恩講は宗祖親鸞聖人のご恩をしのび、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来のお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。親鸞聖人ご往生の後、聖人を祖と仰ぐ私たちの先達は、それを親鸞聖人のご命日にあらため、ご法縁にあずかっていたのです。その後、親鸞聖人の33回忌にあたり、本願寺第3代覚如上人はそのご遺徳を讃仰するために『報恩講私記』をつくられ、報恩講がいとなまれました。以来、聖人のご命日の法要は報恩講として大切にお勤めしています。本願寺第8代蓮如上人がお示しのとおり、正しくお念仏のいわれを聞かせていただき、身にいただいて、眞実信心の行者になることが聖人のご恩に報いる道です。

12月の法座予定

12月 2日……………本部役員会 忘年会
12月 13日……………掃除 中須賀
12月 15日朝席午前10時より……………報恩講法要 おとき
12月 15日昼席午後1時より……………報恩講法要

☆浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」

—浄土真宗一口法話— 12月

「自分のありかたに 痛みを感じるときに 人の痛みが心が開かれる」 (宮城しずか)

今年も、とうとう12月になりました。一年を振り返っていかがでしたでしょうか。

世の中を顧みて、憤慨悲嘆することはいくらでもできますが、自分を顧みる、ことは易しくありません。

仏教の中でも親鸞聖人は、自分を深く見つめられたことでよく知られています。

ただし、それは、私たちの日常生活で、あれが良かった、悪かった、と反省する段階に止まるのではなく、根本において、眞実に背いている、自己中心の思いにとらわれていること、自分が迷いの人生を送っていることに気付くことです。

しかも、そのことに気付かせて下さったのは、阿弥陀如来さまのおはたらきである南無阿弥陀仏です。

道に迷ったことに気付かないと、地図を見たり、尋ねたりしません。何時でも何処でも、私を喚んでいてくださる阿弥陀如来さまに気付く時、眞実に背いた私であることが知られます。

自分だけは正しいと思いつがるのではなく、自分だけが見捨てられていると落ち込むのでもなく、お慈悲の中に、多くのいのちが支え合って生きてゆく喜びを見いだしたいものです。



☆ 除夜会・元旦会法要

今年も例年のごとく除夜会を行います。午後11時より本堂で除夜のお勤めの後、引き続き大鐘の前で讃仏偈のお勤めをいたします。11時40分ぐらいから除夜の鐘つきをいたします。今年一年の思いを込めて鐘をついてもらいます。誘い合わせてお参り下さい。午前零時を過ぎた時から本堂で元旦会のお勤めをいたします。

☆ 御礼

特別永代経懇志

金 二拾万円 坂根 敏一殿 故坂根 ミサヨ様 特別永代経志として



拝まないときも おがんでくださっている如来さま

滋賀県から、密教の修行をなさっているという若い方が、わざわざ、私たちのために、来てくださいました。その方は、さすがに、私たちが直面しているきびしい事実を「仏罰」だとは言われませんでした。

どんな災難も苦しみも、みんな私たちの側にそういうことにあわねばならない「因」と「縁」とがあるからです、とおっしゃっていましたので、私も、大きくうなずかせていただきました。

ところが、「私はまだその力がありませんが、私の師匠は、多くの皆さんの災難の『因』や『縁』を確かめ、それを直すことによって、多くの方を救っていらっしゃいます。あなたも一度、師匠に、災難の『因』や『縁』をみてもらわれてはどうでしょうか」と、おっしゃるのです。私は申しました。

「ご親切、まことにありがとうございます。仰せの通り、私どもが、こういう事実にあわなければならないのは、その『因』や『縁』が、私どもの側にあるからです。

しかし、機械のどこか一部分が狂っているのであれば、『因』や『縁』を正せば、機械が正常に稼働しましょう。ところが、私どもの場合は、機械全体が、救いようのないものになっているということです。こうなりますと、『たとい罪業は深重なりとも、必ず救う』と呼びかけてくださる阿弥陀さまに、罪業ぐるみ、お預けする以外、他の道は、一つもございませんので……」と、お帰りいただいたことでした。



その後、間もなく、「近頃、大評判の名高いお坊さまが、御祈祷によって、多くの皆さんの災難を救っておいでになります。一度、御祈祷をお願いしてみられては如何ですか」と、勧めてくださった方がありました。

「ご親切、まことにありがとうございますが、阿弥陀さまは、こちらが、▽心こめてお願いしなかったら、私どものことを気にかけてくださらぬ如来さまではないのです。拝まない先から、拝まない者も、おがんでいてくださるの

です。拝まないときもおがんでいてくださるのです。祈らぬ者も、祈らぬときも、如来さまの方から、祈ってくださっているのです」といって、帰っていただきました。



☆ 母にねぎらいと感謝を込めて

真面目で、正直な母でした。私と妹は幼いころより、何事にも正直でありなさいと言いきかされて育ちました。

私が結婚して孫に恵まれてからも、愛情深い母が助けてくれたおかげで安心して仕事に励めたと、あらためて感謝しています。

農家出身の母の楽しみは 野菜作りでした。志和に移り住んだ後は 自宅の隣で畑仕事に精を出していたものです。定年間近になった私も作業に加わり母にいろいろと教わりました。



親子で作った野菜を収穫する喜びは今も心に残っています。

母シゲコは平成 26 年 8 月 11 日 93 才の生涯をとじました。家族に囲まれ穏やかに晩年を過ごした母。息子として精いっぱい親孝行ができたことに 悲しみを慰めています。かの地で待つ父と再会したであろう母の笑顔に思いをはせながら。

東広島市 高田 恵

☆安芸北組の壮年会グランドゴルフ大会で横山巧さんが

なんと！優勝されました。

11月20日に安芸北組仏教壮年会グランドゴルフ大会が府中町の青少年文化センターで開催されました。随泉寺は現在、仏教壮年会は休会中ですが、門信徒会より鍋本光信さん、桔梗孝行さん、秀島清明さん、横山巧さんの4名の方が参加され、なんと見事に横山巧さんが優勝という偉業を達成してきてくださいました。

会場が人工芝ということもあり、参加者は皆口を揃えて「普段は土のグラウンドでやっているから難しかった」という声が挙がるなか、横山さんは「人工芝だから芝目を読むことが重要だな…」といち早く攻略の糸口を掴み、その結果で優勝できた！と、とても嬉しそうに話してくださいました。

参加人数が70名程の人数がいる中での優勝なので、随泉寺の名前を安芸北組内にアピールできたとても嬉しいニュースでした。なお、来年も安芸北組グランドゴルフ大会は開催されますので、来年も優勝を狙って皆で参加しましょう！！

